



#### 4 発電施設集積状況(響灘地区)

既設

建設予定

##### (1) 風力発電(陸上)

No.	企業名称(発電事業者)	容量(kW)	稼働時期
1	(株)エスエイトパワーひびき	15,000 [1,500×10基]	H15・3
2	(株)北九州風力発電研究所	1,990 [1,990×1基]	H18・11
3	電源開発(株)	2,700 [2,700×1基]	H25・9
4	西部ガス(エネ・シードウインド)	4,000 [2,000×2基]	H29・3
5	響灘ウィンドエネルギーリサーチパーク (風力発電実証研究ゾーン)	6,600 [3,300×2基]	H30・1
6	自然電力(株)	5,000 [5,000×1基]	H31 予定
合計		既設 30,290 kW [16基] (35,290 kW [17基] 予定)	

##### (2) 風力発電(洋上)

No.	企業名称(発電事業者)	容量(kW)	稼働時期
1	電源開発(株)	1,980 [1,980×1基]	H25・6
2	丸紅グループ (NEDO 浮体式洋上風力実証)	3,000 [3,000×1基]	H30 予定
3	ひびきウインドエナジー(株)	220,000 [5,000×44基]	H34~H36 予定
合計		既設 1,980 kW [1基] (224,980 kW [46基] 予定)	

##### (3) バイオマス発電

No.	企業名称(発電事業者)	容量(kW)	稼働時期
1	響灘エネルギーパーク(オリックス) 【バイオマス・石炭混焼】	112,000 [112,000×1基]	H30.12 予定
2	響灘火力発電所 【バイオマス・石炭混焼】	112,000 [112,000×1基]	H31.2 予定
3	オリックス 【バイオマス専焼】	50,000 [50,000×1基]	未定 (アセス配慮書終了)
4	MOT 総合研究所 【バイオマス専焼】	75,000 [75,000×1基]	未定 (アセス方法書段階)
合計		349,000 kW 予定	

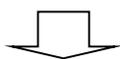
##### (4) 太陽光発電(メガソーラー)

市民太陽光発電所ほか 20 社稼働中
合計 119,127 kW

##### (5) LNG 発電

西部ガス (H34~ 稼働予定)
合計 1,680,000 kW

## 北九州市の電力使用規模は約150万kW



### 響灘地区発電施設の能力

- ・既設（H30.5）で151,397 kW（約15万kW） ⇒ 市内電力使用規模の約10%
- ・今後の稼働予定も含めると、響灘地区で2,408,397 kW（約240万kW）の発電能力 ⇒ 市内電力使用規模の約160%

## 5 送電線の状況

- ・響灘地区では数多くの発電事業者の進出が予定されており、送電線増強が必要
- ・通常は、発電事業者が個別（先着順）に九州電力に接続を申込み、発電事業者の負担で送電線を増強する

### 【本市が行った支援について】

- 響灘地区において予定されている、将来の総発電量に対し、必要な送電線増強について、あらかじめ市が主体となり九州電力と協議
- 発電事業者の早期立地に向け、各社が送電線増設コストを負担し、共同で使用する仕組みを九州電力および電力広域的運営推進機関に要望

## 6 水素関連事業について

- ・響灘地区の豊富な再生可能エネルギーを活用して、CO2フリー水素製造等の拠点化を図るため、国の支援により関係企業と調査を進める。
- ・八幡東区東田地区で進める北九州水素タウン実証・PR事業において、他に類を見ない大規模パイプラインや世界唯一の一般家庭への供給を活かし、東京オリンピック・パラリンピック選手村地区のエネルギー事業者等との連携により各種実証事業に取り組む。

## 7 雇用、経済効果、低炭素化への貢献

- ・再生可能エネルギーを通じた産業の集積と雇用の創造など、市の成長を支える基盤となっている

項目	内容	備考
雇用	約2,100名（建設工事含む）	H29年度末
経済効果	約1,340億円	H29年度末
低炭素化への貢献	風力発電：政令市第1位	H29年度末
	太陽光発電：政令市第2位	H29年度末
	国の再エネ導入目標を前倒しで達成予定	国：2030年度22～24% 本市：2024年度38%